**7月25日　Trunk株式会社　代表取締役　CEO　　　 　　　　　　　　 西元　涼　氏**

**株式会社FRONTEOコミュニケーションズ　代表取締役社長　斎藤　匠　氏**

**問１　学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

今回の講師の方々は、社員時代を経て、社長となっている。2人に共通している事、また異なっている事というのが、その人の考え方にも、また社長としての立ち位置（創業者と子会社社長）にも見出されて対照させながら講演を聞くことができてよかった。また、社長と社員の違いもディベートを通して知ることができた。斎藤氏は社長として「意思決定力を節約し、重要な決断に注力するように心掛けている」と言っていた。自分は些細なことにも神経をすり減らして考えてしまうのでonとoffではないが、緩急をつけるように意識していきたい。西元氏は社員として会議での根回しが大変と言っていた。社長としても根回しは対外的（社外）にはありそうだなと感じた。（理工学部　化学生命学科　3年）

global→where, Technology→what, opportunity→how が印象に残りました。人工知能とロボットのソリューションを用いて、コミュニケーションの質、量改善、生産性向上に貢献できるのはすごいなと思いました、人間の模倣を解析するAI：KIBITも、学んで答える小さなロボット：Kibiroも値段は高いがすごい機能だなと思いました。Trunkさんは、大学生向けの実務経験・スキルアップができる場を無料で提供している企業があるとは思っていなかったので驚きました。生まれた環境に関係なく、「やる気次第で誰でも活躍できる世界をつくるという」visionはとてもいい考えだと思いました。私たちへのMessageとして、①時間を大切にする②たくさん失敗する③理想から考えるというものがありましたが、②のたくさん失敗するには驚きました。他の人は色々なことに挑戦しなと言いますが、西元さんは失敗から学ぶことを大切とおっしゃっていて驚きました。（経営学部　経営学科　１年）

斉藤さんの、仕事を選ぶ上で大事なのはwhere what how が大事だというお言葉がためになりました。現在、将来やりたい仕事が明確でない私にとってとても参考になりました。どこで、何を、どのようにしたいかということを考えて、就職活動をする際に生かしたいと思います。また世界中に社員がいることで世界中を飛び回ることができる機会があるのはとても魅力的だったので私もそういった機会を与えてくれる会社に就きたいと思いました。西元さんがおっしゃっていた「理想から考えよう」というメッセージはとても新しい視点で、新鮮でした。理想を実現させるためには、と考えるとできることがたくさんあると思うので、今後の行動の指針にしていきたいと思います。（経済学部　経済学科　１年）

今、大学で過ごす時間を大切にしようと思いました。理想から考えようという言葉にすごく感動しました。どんな国で子供を産んでも、日本で子供に教育を受けさせたいと言われたら、とてもすてきだと思います。起業している人たちに共通して、人生の壁にぶち当たる人が多いなと思います。私は困難に立ち向かう勇気がほしいなと思いました。（理工学部　環境系学科　２年）

近年、人工知能についての話題はたえることがないが、そういった時代の最先端を走っている話は、今後の社会システムを考えていく上で非常に役に立った。私たちがニュースなどを通して聞くような事件や報道にも、このような最先端の技術が駆使されていることに驚きを感じとともに、普段私たちに伝わる情報は本当に表面上なものだと思った。

　西元さんの、若者たちにスキルアップを提供しているという話からも、社会貢献を通じて自社の利益を求めるという互いにWinWinな方針の重要性を感じることができた。（経済学部　１年）

FRONTEOでは外国人の社員が7割と高く、買いが愛の拠点地でも日本人がたくさん働いていると斎藤氏が言っていた。自分は日本人だが日本にこだわりすぎることなくさまざまな考えを持つ人といい商品を作る仕事をしたいので文化や宗教の異なる同僚がたくさんできることは大きな魅力だと思った。また、西元氏が私たち学生に向けたメッセージである「時間を大切にしよう」という言葉にはっとした。これまで自分が「今やるべきこと」をせずむだに消費してしまった時間を思い出したからである。これまでの「失敗」をもとに今後の「理想」をつくり実現しようと考えた。(理工学部　化学　生命系学科　3年)

西元氏のお話の“生まれた環境に関係なくやる気次第で誰でも活躍できる世界を作る”という言葉が印象に残りました。確かに生まれた環境によってやれることやれないことが決められてしまうのは勿体無いことだと思います。なのでもし、西元氏のいうような世界があるのなら、ぜひそのような世界で働いてみたい、生活してみたいと思いました。また斎藤氏がおっしゃった「目的地を決め、行き方を決めてそれに向かっていく」というFRONTEOの考え方がとても気に入りました。私も自分の目的地に行けるように頑張りたいです。（経営学部　１年）

**問２　今後のアクションに繋げていきたいこと**

本日の講義より、失敗を恐れずにたくさんすること、並びにアドバイスを受け入れることを専念していきたいと思います。学生時代であまり思考を堅くせず、自分の理想を思うがままにし、失敗をおそれずこれから活動にそれらを活かしていきたいです。 (理工学部　建築都市・環境系学科　２年)

大学生向けに“TRUNK”ほど充実したスキルアップできる場を無料で提供している会社は見たことがないのでとても驚きました。長期休みの時に参加できる企画があったら、ぜひ参加したいです。「BASIC」「ADVANCED」というようにレベル別に分かれているので「ADVANCED」に自信を持って参加できるよう色々なことに取り組んでいきたいです。（経営学部　経営学科　１年）

新たな領域の分野においてファーストペンギンになり何ごとにおいても第一人者になりたいと今日の講演を聞いて強く思った。また、理想、ゴールを先に考えておきそれに近づいていけるように細かい努力を重ねてく。(経済学部　経営学科　1年)

失敗は誰しもがやりたくないことではなく、私自身負けず嫌いでプライドが高い一面があるので、あまりやりたくはなく避けて通りたいものです。しかし、だからこそ嫌な思い出は記憶に残りやすく、同じ失敗は絶対にしなくなります。今後も失敗したくはありませんが、せめて「いい失敗(取り返しがつくようなこと)」を繰り返し行って、経験をつみ、学生でいる間に自分の糧を増やしていきたいと思いました。(理工学部　化学　生命系学科　3年)

目標を具体化することが極めて大切なのだと気づかされました。指針が自分の中にあるのとないのでは、行動の一歩に大きな差が出る。前者は一直線に、後者は蛇行して、最早前に進んでいるのかもわからなくなってしまうのだと思いました。若いうちにやりたいことをある程度きめることが大切で、経験に打ち付けられたものでなければと思い、実践していきたいです。（理工学部、化学応用学科、3年）

失敗をたくさんした方がいいということは多くの講演者の方が仰っていましたが、最近大きな失敗をしたかという問いに対して、小さい失敗は色々思い浮かびましたが、大きな失敗はないと思いました。学生の間は大きな失敗をするチャンスだと思いつつも、日々の課題に追われて時間がなかったり、時間の制約を言い訳に今は無理であると思い、大きなものに挑戦してこなかったことを実感しました。残りの大学生活のプランを早めに立てて、何か大きなことに挑戦したいと思います。（理工学部　数物電子情報学科　３年）

**問３**　**この授業でご講演いただいた講師の方々の中で、最も刺激を与えてくれたと思う方は誰ですか？あるいは、最も心に残った言葉は何ですか？それはなぜですか？**

タスカジの和田社長のお話が印象に残っています。現代の社会に目を向けて、必要とされていることを提供されていることを提供しようとなさる姿勢に感動した。「よりよいサービスを」という気持ちが強く伝わってきました。(教育人間科学部 人間文化課程学科 2年)

株式会社リンクアイの渡辺隼太氏の「背中に電流が走る経験」という言葉が心に残っている。そんな衝動を得たらどんなに苦しい局面でも耐えられると思う。この言葉には経営者としてだけでなく、人間として生きるヒントが込められているなと感じた。(経営学部 経営学科 1年)

皆さんからそれぞれなりの学びがありました。いろいろな立場の方（村長さんからベンチャーの社長さんまで）が来て、バラバラだった分面白かったです。ただ、今の自分の考え方と大きなずれはなかったので、このままのスタンスを保ちながら、よりたくさんの大人の方と話してもっと経験をしていきたいです。（教育学部　２年）

(株)Curio School の西山さんのお話にとても刺激を与えられました。「俺はビルゲイツみたいになりたいと思ってるんだから、ダラダラしてる暇なんかない。」と思いながら昔は行動していた、というような話を聞いて、大きな目標を持っている人は普段からの心構えが違うのだな、と気づかされた瞬間だったので印象的です。（経営学部　１年）

ライフスタイルアクセントの山田氏、ガイアックスの上田氏、馬路村の上治村長が最も刺激を与えてくれたと答えた人が多かった。

・山田氏「多くの講演者が様々なお話をしてくださった中でも、とびぬけて熱意のある方だと感じたから。自身にあふれた話しぶりは素直にかっこいい人だと感じ強く印象に残った。」

・上田氏「“何かを始めようとするときには完成のイメージをもってそのイメージに向かってスピードをもって取り組む。”という言葉が印象に残った。」

・上治村長「特に特殊な技術を使うわけでもなく、今ある資源を最大限に利用して、村を売っていく、という考え方と、そのアイデアに感銘を受けた。」

最も心に残った言葉

・日本環境設計株式会社　髙尾　正樹　氏　「OJY おまえ　じぶんで　やれ」

独立することの重要性を感じ取ることができたから。

最も心に残った言葉は、何人かの人が言っていた、「大学生なのだから色々やってみよう」という言葉です。一般論として「大学生は自由だから…」みたいなのはあるけれど、成功した人や、とりわけ同じ理系の人が言っていたのは、説得力がありました。

(理工学部　電子情報学科　1年)

**授業スタッフの感想**

本日でこの「経営者から学ぶリーダーシップと経営理論」の授業を受け終わりました。この科目をとることによって、自分が変わったと感じたのは、「事業を起こすことが以前よりも近くに感じるようになった」というものです。実際に自分が事業を起こせるか否かは別として、起業家や経営者の精神を学ぶことができました。本日の講演で最も印象に残ったのは「やりたいならアクションを起こそう」という言葉です。自分は春学期の後半は、時間がないことを言い訳にして興味のある地域再生などの分野を調べたりすることがほとんどありませんでした。もう一度気持ちを入れ替えて、この夏季休業中に自分の興味のあることを調べてみたり、大学生活のプランを立て直したりしたいと思います。

今回のアンケート集計で気付いたのは、問3の答えにファクトリエの山田氏が多く挙がっていたことでした。1番目の講演者でしたが、話の引き込み方が巧みであったことが印象に残ったようです。私も彼の印象は強く、「日本ブランドを大切にしたい」という思いは伝わってきました。

今学期は受講生としてスタッフとして、井上教授には色々お世話になりました。ありがとうございました。この授業を取ることができて、とても良い経験になったと思います。秋学期も引き続き、「ベンチャーから学ぶマネジメント」の授業も受講したいと思います。

西元さんのお話から、時間を大切に、短い時間をいかに有効に使ってたくさんのことを経験するかで自分のキャリアは変えられるのだと思いました。また、斉藤さんの、社長になったことで大事な案件の決定のために日々の細かい意志決定能力を節約するというお話から、大事なことのためには、しっかり大事なことを見極め、取捨選択していこうと思いました。

「どのように働くか」が大切だという言葉が一番印象に残りました。Trunkのサービス、ぜひ利用して、スキルアップして、自分の夢に近づく一歩にしたいです。また、パネルディスカッションはとても新鮮で、面白かったです。この講義を履修し、さらにスタッフをすることができて、本当に良かったです。精神的に得られたものが一番大きかったです。秋学期もよろしくお願いします。